

我孫子市鳥の博物館調査研究報告第10巻：

春期の水田で見られたキョウジョシギによる ミジンコの採食例

渡辺 朝一

キーワード：キョウジョシギ，タマミジンコ，水田

キョウジョシギ *Arenaria interpres* は、春秋に日本列島各地の水辺に渡来するシギである。シギ・チドリ類に関しては、海岸部の干潟が重要な渡来地であるといわれてきたが、近年の調査では、内陸の水田地帯にもかなりの数が飛来することがわかっている(熊田・伊村, 1998, 大高, 1998)。水田に渡来するシギ・チドリ類に関しては、渡来状況以外にあまり詳しい研究が行われておらず、その生態はあまりわかっていない。

筆者は1996年5月6日、茨城県下の水田で、本種が枝角類を捕獲摂食していると思われる場面を観察したので報告する。観察した場所は茨城県岩井市郊外の、飯沼川沿いに広がる水田地帯(36° 4' N, 139° 80' E)である。既に田植えが終了し、まだ丈の低いイネが一面に植えられた一枚の水田で、キョウジョシギ2羽がしきりに水田面の表面をつついている場面が見られた。通常田植えが終了した水田は、一面に浅く湛水していることが多いが、この水田は水量が少なく、全面積の半分程度にわずかに浅く水がついていたが、面積の半分ほどは、湛水がなく、湿っているだけの状況であった。キョウジョシギがつついていたのは、水のついていない水田面の表面で、泥の中へ嘴を差し込むような動作は一切見られず、泥の表面から細かいものをつついてつまみあげるような嘴の使い方であった。餌の捕獲摂食に成功しているかどうかは、はっきり確認できなかった。この2羽のキョウジョシギは、この場所での採食に固執しており、お互いを追い払いあう動作が見られた。飛来したカラスに驚いて、キョウジョシギがこの場所から飛去した後、その場所に赴いて水田

面を確認したところ、赤っぽい色をしたプランクトンが、多数水田面に貼り付いたような状態となっていた。水中に多く見られたプランクトンが、水量が減少して水が干上がることにより水のない水田面に取り残されてしまったものと思われる。1週間後の5月18日に、このキョウジョシギの特殊な採食行動を観察したすぐ近くの湛水した水田に、同種と思われる赤っぽく見えるプランクトンが多数見られたため、これを水ごと採集してホルマリンで固定し、同定したところタマミジンコ *Moina macrocopa* であることがわかった。このプランクトンはサイズが小さいため、今回の観察でも、キョウジョシギによって確実についばまれ、飲み込まれたかどうかははっきり確認できなかった。しかし、今回観察したキョウジョシギでは、すべて泥の表面からつまむような嘴の使い方をしており、泥の中から餌を引っ張り出したり泥の中を探ったりする様子が一切認められなかった。また、水田面の表面にはこのプランクトンの他にキョウジョシギの餌になるような小動物は一切見られなかった。そのため、今回の観察でキョウジョシギはタマミジンコを捕獲摂食していた可能性が極めて高いと考えられる。キョウジョシギの餌内容としては、甲殻類、軟体動物、昆虫等があげられているが(Cramp, S. & Simmons, 1983)、枝角類の捕獲摂食に関しては記録がない。足と嘴が短い本種の体型では、サイズが小さい上に水中を遊泳し、特に動きが鈍いわけでもないタマミジンコや、その他のプランクトンを捕獲摂食することは困難と考えられ、今回の観察例は、湛水のない地面に多数のプランクトンが貼り付いた状況で見

られた特殊なものと考えられる。

プランクトンの同定の労をとっていただいた高橋英之氏，顕微鏡でのプランクトンの観察にお力を貸していただいたミュージアムパーク茨城県自然博物館の小幡和男，茅根重夫，池澤広美の各氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- Cramp, S. & Simmons, K. E. L. (eds), 1983. Handbook of the Europe, the Middleeast and North Africa. Vol.3. Oxford Univ. Press., Oxford.
- 熊田欽丈・伊村務. 1998. 春期における栃木県水田へのシギ・チドリ類の飛来状況. *Accipiter*4 : 17-23
- 大高由良. 1998. 98年度シギ・チドリ類調査報告. 日本野鳥の会茨城県支部報 ひばり 226 : 6-9

Observation of foraging *Moina macrocopa* by Ruddy Turnstone *Arenaria interpres* in paddy fields in spring season

Tomokazu Watanabe

Two Ruddy turnstones pecked very often the surface of paddy fields water is gone at 6th May 1996. Many *Moina macrocopa* were left on the surface of paddy fields. I guess the birds foraged *Moina macrocopa*.

KEY WORDS ; Ruddy Turnstone, *Arenaria interpres*, *Moina macrocopa*, Paddy field

6-2-45-203 Yachiyodaikita, Yachiyo-shi, Chiba 276-0031